

2020年4月までの東京都食中毒発生状況（速報値）4月30日現在

2020年4月末までの都内の食中毒の発生状況が、東京都から公表されました。

4月の結果は、昨年、一昨年さらに過去10年間の平均と比較しても、非常に低い発生状況となっています。新型コロナウイルスの影響を濃厚に受けた結果であることは確かで、手洗いやアルコール消毒が過去にないほど徹底されている結果だと推察できる結果となりました。

- 1 事件数（4月分までの累計）
44件（去年同期46、最近10年間の同時期46件）
- 2 患者数（4月分までの累計）
386名（去年同期359名、最近10年間の同時期875名）
- 3 死者数（4月分までの累計）
0名（去年同期0名）

4 月別食中毒発生状況

（1）2020年月別発生状況（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	11	19	11	3									44
患者数 (人)	66	251	64	5									386

（2）2019年月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	9	11	16	10	7	11	10	7	7	11	9	11	119
患者数 (人)	81	34	154	90	20	35	25	113	113	61	52	87	865

（3）2018年月別発生状況（確定値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数 (件)	9	11	13	23	22	15	9	19	31	11	7	15	185
患者数 (人)	303	133	130	202	211	87	46	265	188	50	35	268	1,917

（4）最近10年間の月別発生状況（2019年までの平均値）（速報値）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計
件数	14	10	11	11	10	12	10	11	13	10	9	13	133
患者数	317	219	138	201	88	124	59	121	122	88	96	228	1802

5 病因物質別発生件数

4月の食中毒発生件数は3件で、アニサキス食中毒2件、有毒植物によるものが1件でした。

有毒植物による食中毒は都内ではあまり発生していませんが、全国ではこの時期多発する食中毒です。

都内の1件はスイセンによるもので、ニラと間違えて誤食するようです。有毒植物では最も発生件数が多く、死者も出ていますから注意してほしいものです。

なお、自然毒による食中毒は、ほとんどが家庭で発生しており、今月のスイセンによる食中毒も飲食業などの営業施設が原因ではありません。

		令和2年（2020年）				2019年					
		4/1～4/30		累計(4/30まで)		4/1～4/30		累計(4/30まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
ウイルス	ノロウイルス			13	124	3	78	9	175	14	266
細菌	カンピロバクター			3	16	2	6	9	46	36	187
	黄色ブドウ球菌			2	22			1	4	1	4
	ウエルシュ菌			1	184			2	103	3	196
	セレウス菌									1	20
	サルモネラ									2	18
	腸管出血性大腸菌							2	7	5	24
	腸管出血性大腸菌/ カンピロバクター									1	2
	サルモネラ及びカンピロバクター			1	3					1	7
寄生虫	アニサキス	2	2	21	22	5	6	23	24	50	52
	シュドテラノーバ			1	1					1	1
化学物質	ヒスタミン			1	11					1	7
自然毒	植物性自然毒	1	3	1	3						
	不明									3	81
	合計	3	5	44	386	10	90	46	359	119	865

6 原因施設別発生件数

4月の原因施設別発生状況は下表のとおりです。

		令和2年（2020年）				2019年					
		4/1～4/30		累計(4/30まで)		4/1～4/30		累計(4/30まで)		累計(12/31まで)	
		件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数	件数	患者数
飲食店営業	一般			23	129	7	49	32	206	89	588
	すし			8	16			5	5	8	9
	仕出し			2	198					1	93
	弁当										
	旅館・ホテル							1	1	1	1
集団給食（要許可）				1	16			1	76	1	76
集団給食(届出)				1	7						
魚介類販売業				3	3	1	1	3	3	6	6
飲食店営業（一般）、菓子製造業						1	39	1	39	1	39
飲食店（一般）、そうざい製造				1	10						
家庭		1	3	1	3					2	2
その他								1	27	2	43
不明		2	2	4	4	1	1	2	2	8	8
合計		3	5	44	386	10	90	46	359	119	865

7 食中毒のことや発生状況についてもっと知りたい方は

(1) たべもの安全情報館 知って安心～トピックス～(東京都福祉保健局)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/anshin_topics.html

(2) 東京都の食中毒発生状況

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/tyuudoku/index.html>

(3) 全国の食中毒発生状況（厚労省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/index.html

8 元食品衛生監視員のつぶやき

新型コロナウイルスによる非常事態宣言の影響で、4月の都内の食中毒発生件数は3件、患者数は5名という非常に少ない状況でした。

営業施設の自粛が広がっている影響が大きいのと思いますが、手洗いや消毒の励行も大きく貢献していると考えられます。

今月は、最近3年間に都内では一件も報告がなかった有毒植物による食中毒が発生してしまいました。

全国で見ると、毎年のように死者が出ているイヌサフランのような猛毒を持つ植物もあります。

過去10年間に発生した有毒植物による食中毒の合計を厚生労働省のホームページから引用しまし

た。

平均すると、毎年 20 件近くの食中毒が発生し、数名の方が亡くなっています。

身近な植物には有毒物質を含むものが多いこと、成長の段階で、ほかの植物と驚くほど形態が似てしまうものがあることなどに注意してください。

できれば、ニラなどのお店で普通に売っているものは、お店で購入したらいかがでしょうか。

過去 10 年間の有毒植物による食中毒発生状況（平成 22 年～令和元年）

植物名	間違えやすい植物の例	事件数	患者数	死亡数
スイセン	ニラ、ビル、タマネギ	57	195	1
ジャガイモ		21	327	0
チョウセンアサガオ	ゴボウ、オクラ、モロヘイヤ、アンタバ、ゴマ	15	41	0
バイケイソウ	オオバギボウシ、ギョウジャニンニク	15	33	0
クワズイモ	サトイモ	15	30	0
イヌサフラン	ギボウシ、ギョウジャニンニク、ジャガイモ、タマネギ	15	22	10
トリカブト	ニリンソウ、モミジガサ	9	17	3
コバイケイソウ	オオバギボウシ、ギョウジャニンニク	5	13	0
ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ	4	4	0
観賞用ヒヨウタン	ヒヨウタン	3	20	0
ハシドコ	フキノトウ、ギボウシ	3	8	0
キダチタバコ	カラシナ、カラシ	2	7	0
ユウガオ	ヒヨウタン	2	7	0
スノーフレーク	ニラ	2	5	0
ヒガンバナ		1	2	0
タガラシ		1	1	0
その他（タマスダレ、ヒメザゼンソウ等）		16	53	0
不明		4	8	0
合計		190	793	14